

にんにく（普通）

栽培暦

作型	月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
露地 普通			定植 萌芽					追肥	追肥	花茎 摘み		収穫

栽培の特徴とポイント

生育及び発芽適温は15～20℃で、25℃以上の高温で生育が抑制される。栽培は、肥沃で耕土の深い、排水の良い所が望ましい。最適pHは6.0～6.5で、酸性が強すぎると球の肥大が悪くなることから、石灰資材で酸度矯正する。越冬後5月に花茎が伸長し抽台する。しかし、結実することはなく、繁殖にはりん片を種球として使用する。ねぎ、たまねぎ等ゆり科作物との連作は避ける。

品 種

ホワイト六片：寒地系品種で、耐寒性が強く作りやすい。鱗茎の表皮が純白で、りん片が厚く大きい。貯蔵性も高い。

栽培管理

1 耕起及び畝立て

堆肥、苦土石灰及び熔燐は定植の2～3週間前に散布しておく。定植前に高度化成を全層に施用後耕起し、畝幅140～160cmで畝高25cm程に畝立てする。

2 施肥

施肥例（kg/10a）

肥料の種類	総量	基肥	追肥 3月下旬	追肥 4月中旬	成分量		
					N	P	K
完熟堆肥	2,000	2,000					
苦土石灰	160	160					
熔燐	80	80				16.0	
そさい3号	70	70			10.5	10.5	10.5
NK化成2号	60		30	30	9.6		9.6
合計					20.1	26.5	20.1

注：マルチ栽培する場合は追肥しにくいので、緩効性肥料を用い全量基肥とする。

3 定植

1)定植時期

9月下旬～10月上旬

2)種球の準備

種球は10a当たり200～300kg準備する。種はあらかじめ小片に分割しておくが、その大きさは1片当たり10～15gが適する。7g以下の小球や病球は使わないようにする。分割と同時に大・中・小に選別し、種子消毒剤を湿粉衣する。

(湿粉衣の方法) 種子重量1kg当たり20mlの水で種子の表面を湿らせ、種子表面全体に10gの薬剤(種子重量の1%)を付着させる。

3)栽植方法

畝幅140～160cm×株間12～15cm×条間25cmの4条で植える(10a当たり栽植密度は16,000～23,000株)。植付け深さは5～7cmとし、先の細い方を上にして一片ごとに植え込む。なお、マルチ栽培する場合は、栽植密度に合わせた黒ボリの穴あきフィルムを利用する。

4)管理

- ・植付け後、土壌がやや湿っている時期に除草剤を畝表面に散布する。
- ・畝立て後、積雪前及び融雪後に排水溝の手直しをする。
- ・萌芽時に2本立ちとなった株は生長の良い方を残すように押さえ、悪い方を引き裂くように抜き取り1本に間引く。
- ・新球の肥大を良くするために、抽たいしてきたら早めに「とう」を摘み取る。
- ・新球の肥大期に土壌が乾燥すると、肥大が悪くなるのでかん水する。

病害虫防除

タネバエ、タマネギバエの被害を予防するため、未熟堆肥の使用を控え、定植時に粒剤を施用する。融雪後春先には春腐病、その後の高温多雨で葉枯病、さび病が発生しやすい。適期に薬剤を散布する。

収穫・調製

1 収穫

葉全体の1/3～1/2が黄変した頃が適期となるので、晴天日に収穫する。掘りとった球の底部(尻)が平らになった状態が良く、早すぎると貯蔵性が劣り、遅すぎると裂球しやすくなるため注意する。

貯蔵する場合は早めに根を切り、10株程ずつ束ねるか網袋に入れ、半日陰の風通しの良いところで1ヶ月ほど乾燥させる。

2 調製

乾燥後、泥のついた球の外皮を2枚程度剥いで網袋に入れて出荷する。なお、常温で貯蔵する場合は、湿気がなく温度変化の少ない場所に、冷蔵の場合は温度0～6℃、湿度65～70%の条件とする。

販売のポイント

冷蔵条件では5～6ヶ月の貯蔵が可能である。計画的な出荷に努める。